

第5回 「福祉のしゃべり場」 報告

実施 2020年2月22日(土) 13:30~15:30
東京YWCA会館 217室 参加者16名

＜前半＞ タッピングタッチ体験

会員で専門学校福祉科卒業生の柴田邦子さんによる体験講座
(タッピングタッチ認定インストラクター
介護者向けタッピングタッチくみカフェ開催)



相互に体験 効果を実感!!

ゆっくり・やさしく・ていねいに とてもシンプルなタッチ・タッピング方法を学び、互いにほっこりしました。セルフタッピングも教わり、もっと学びたいな・との意見も頂きました。

＜後半＞ シャべり場時間

短めでしたが、新聞コラム「知的障害者グループホーム入所者が土日に帰宅すると興奮することが多く、家族が休めない」を使用し、それぞれの経験や様々な視点からコラムにある状況を自由に分析、支援の側の課題を考えてみるなど、互いの話を聞き合いました。ヒントとなって力をいただいた参加者もおられました。

次回の「福祉のしゃべり場」は・・・

2020年9月5日(土) 13:30 ~ 15:00 Zoom を使っておしゃべりしましょう!
テーマ 「コロナで変化した現状」～コロナによって困ったこと、取り組んだこと、変わったこと～

参加ご希望の方には、ミーティングIDをお知らせします。HPからお申し込みください。↓

今後の「福祉のしゃべり場」については随時HPにてお知らせいたします。

お問い合わせは、事務局 03-6273-7134 まで



ご寄付のお礼 皆様のご支援により支えられています。

2019年8月~2020年7月にご寄付いただいた皆様(敬称略・順不同)

岡部卓・岡澤和枝・田島誠一・近藤真里子・大井妙子・新田和子・渡辺美智子・杉本策子・林伸子
中村道子・加藤さく子・生野のぞみ・富澤優江・鍋田都・日向野明子・徳森敬子・宮本久子・大庭みづほ
感謝をもってご報告申し上げます。

会費・寄付金等振込先

年会費：正会員 3,000円/年 賛助会員 一口10,000円/年 団体会員 20,000円/年

◆株式会社 ゆうちょ銀行 記号10170 番号80995501

◆三菱UFJ銀行 神田支店 口座番号 普通預金0138637

口座名義 特定非営利活動法人 東京YWCA ヒューマンサービスサポートセンター

発行所 特定非営利活動法人 東京YWCAヒューマンサービスサポートセンター

発行人：石井須美子 編集人：長尾恵理子 大庭 幸

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台一丁目8番11号東京YWCA会館216室

TEL・FAX 03-6273-7134

新HP(お引越しました) <http://ywca-hssc.org/> 東京YWCAヒューマン で検索

2020年8月3日~7日 夏季休暇をいただきます。

編集後記：NPOを案じてくださりありがとうございます。事務局は3月24日~4月30日休業していましたが、現在は皆元気に通勤しています。休業明け出勤すると御茶ノ水駅にはエスカレーターができ聖橋口出口は丸善書店の目の前に移動していました。皆様お元気で!(Y.O)



特定非営利活動法人

東京YWCAヒューマンサービスサポートセンター

会報

見守り

支え

伝え合う

私たちは、福祉・介護の仕事のゆたかさを広げる活動を推進します

20号
2020年7月

年次総会を終えて

特定非営利活動法人

東京YWCAヒューマンサービスサポートセンター 理事長 田島 誠一

会員総会を開催し、事業報告・決算、事業計画・予算、理事監事の選任の各議題をご承認いただきました。密にならざるを得ない現場で奮闘されている会員の皆様には思いをはせながらの開催となりました。

昨年度は、東京都委託研修は順調に推移しましたが、法人独自の講師派遣事業は例年になく不調に終わり、決算もマイナスを計上しました。

深刻な人材難の中で、職員研修の実施が困難になっている事業者が多かったことが要因の一つです。苦しい中だからこそ働く人々が辞めずに継続していくことが求められています。「対人援助にかかわる人たちの成長を支援する」(法人理念) ことの大切さを伝えきれなかったのかと反省し、とても残念に思っています。

その中で、今年度の新しい取り組みにつながる事例がいくつか出てきたことは成果だと考えています。事業計画・予算に反映しましたが、複数施設による合同研修、会員交流活動としての「しゃべり場」の開催などです。今年度は感染防止に留意しつつ研修を実施し、収支もプラスに転じる予定です。

さて、この数年私はヒトが人になった過程に強い関心を抱いてきました。人間の子どもは、非血縁個体間で食物などを自ら分け与えるが、最近縁のチンパンジーは自ら分け与えることはほとんどしないのだそうです。子供の成長、高齢者の生活など社会生活の様々な場面で、他者からの期待に応えることで自己も満足するということがよくみられます。「分かちあい」の心が「共認」へと進化してきているのでしょうか。ヒトが人になる過程で、共同の子育ても高齢者のケアも始まったように思います。私たちの遠い先祖が共に認め合う行動を進化させ文化を形づくってきたように、今を生きる私たちも利用者さんをはじめ家族、同僚など関わる全ての人とともに生きることを基礎に福祉人として成長したいものです。

なお、総会後の理事会において理事長に再任されました、より一層のご支援ご鞭撻をお願いいたします。

2019 年度 事業報告 (2019 年 4 月 1 日から 2020 年 3 月 31 日)

I. 事業に関する事項

法人の掲げる理念・使命の実現に向けて高齢者、障害者、子ども福祉を含めた事業を実施した。

1. 講師派遣研修

2019 年度の実績は、単発研修 4 件、3 回以上の継続研修 8 件。公益財団法人主催の見学研修コーディネーター派遣 1 件。事業収入は、前年比で、約 33%の減収となった。福祉分野の人手不足の影響が続き、各法人においては人材育成に取り組む余力のない状況が続き、新規の契約には繋がらなかった。これまで施設長や研修担当者信頼関係を築き、それぞれの課題解決に向けたやり取りにより契約につなげてきたが、従来のやり方では契約につながらず、見直しが必要であり打開策の検討が求められている。

3 月には高齢者施設の感染予防対応として外部の人の出入りを制限する動きが進んだ。その影響を受け、高齢者施設の 3 月研修が全て延期となり、新規に実施を予定していた西多摩地域の「介護職員ステップアップ研修」が延期、開催の見通しが立たない状況となった。福祉現場では、感染予防に日々努める中、職員の心身の健康不安は大きく、利用者のQOL低下も懸念される。新型コロナウイルス感染の影響を正しく認識し、感染予防を図りながら福祉人材育成事業を展開するための新しい仕組みについても検討していく必要を痛感している。

2. 講座 講習

「東京都保育士等キャリアアップ研修」を計画の通り 14 回実施。修了者数 572 名。

「1日ですぐ園長・主任・事務長のためのマネジメント講習会」 日時:9 月 28 日(土)9:30~16:30 会場:東京 YWCA 会館

講師:遠藤久江氏・田島誠一氏 参加者 12 名 受講者から好評を博すも、集客に課題を残した。

3. 福祉啓発事業 「福祉のしゃべり場」 3 回開催 開催時間:13:30~15:30

1 回目 7 月 27 日(土)参加者 10 名 2 回目 10 月 5 日(土)12 名 3 回目 2020 年 2 月 22 日(土)12 名

4. 会員活動

総会後、親睦会実施 20 名の会員が参加。会員相互に近況を話しながら親交を深めた。

5. 広報

1)会報: 18 号 500 部 19 号 300 部発行。 2)HP の活用:トップページ画面の改訂

II. 運営に関する事項

1. 会員総会 2019 年 6 月 22 日(土)13:30~15:00 東京 YWCA 会館 217 室

2. 理事会 年 3 回実施

3. 会員 2020 年 3 月 31 日現在 正会員 個人:80 名 団体:2 賛助会員:8 名

4. 事務局体制 理事長:田島 誠一 事務局長:専任 事務:専任 1 名 非常勤 2 名

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、3 月から事務所で勤務を一人とし、在宅勤務に切り替えた。

その後理事長との協議を経て、雇用調整助成金の支給を受けることを決め3月24日から3月31日まで休業とした。

2020 年度 事業計画 (2020 年 4 月 1 日から 2021 年 3 月 31 日)

I. 事業に関する事項

法人の掲げる理念・使命の実現に向けて高齢者、障害者福祉に加えて、子ども福祉分野を含めた事業は、今年 10 年目に入る。

これまでの取り組みをまとめ、今後の法人の進むべき方向を検討していく 1 年としていきたい。

1. 講師派遣事業

10 年目を迎えるにあたり、これまで進めてきた講師派遣研修では、「一方的な講義に終わらない双方向コミュニケーション」を念頭に取り組んできた。2020 年新型コロナウイルスの影響を受け「対面型の研修」を実施することが困難になる現状においては、ウェブ配信、eラーニングの可能性と課題を明確にしながらか講師派遣研修事業について、柔軟な発想で検討を重ねていきたい。

2. 講座 講習

東京都保育士等キャリアアップ研修は、昨年同様東京都の認可を受け受託。3 年目に入りこれまで以上に質の高い研修を目指す。

また、新型コロナウイルスやインフルエンザなどの感染予防に努め、安全な研修環境を提供すべく不断の取り組みを進める。

3. 福祉啓発事業 「福祉のしゃべり場」 年 3 回 詳細については裏表紙参照

4. 会員活動 Zoom での会員交流などを展開していく。

5. 広報 1)会報の発行 年 2 回 各 300 部 2)HP の活用

II. 運営に関する事項

1. 会員総会 : 年 1 回 2. 理事会 : 年 3 回 3. 会員 : 会員の数値目標 正会員 個人 85 名。

4. 事務局体制 : 理事長 田島誠一 事務局長:非常勤 事務:専任 1 名・非常勤 1 名 事務局会議:毎週月曜日

コロナ禍のいま 福祉現場で思うこと

高齢者の施設から

八国山のちからを感じながら



法人理事

白十字ホーム ホーム長 西岡 修

今年も半年が過ぎてしまいました。この間の新型コロナウイルスの流行が私たちの暮らしのあり様をガラリと変えてしまいました。

私が勤務する白十字ホームは、アニメ「となりのトトロ」のモデルとなった東村山の里山、八国山緑地にあります。トトロで七国山病院として登場したような結核サナトリウムの面影はありません。しかしむせ返るほどの青葉の木々に変わりはありません。

八国山は 700 年前、新田義貞が幕府軍と激突した「久米川の戦い」で新田軍が陣を置きました。

そこには「將軍塚」という国の重要文化財となった史跡があります

ホーム脇の八国山に登る坂道は、旧鎌倉街道です。新田義貞の軍勢がその坂を駆け下りて鎌倉攻めに向かったことに想いを馳せると、トトロを超えて悠久の時の流れを大いに感じてしまいます。

時代が下って、八国山は地元の人たちにとって、燃料としての薪を集める生活の山でした。いまは、薪を集める人はなく、木々は伸び放題。おかげで緑ゆたかで武蔵野の面影を感じることができます。元々、狸がいたり、キジが飛んできたりしていましたが、つい最近、ハクビシンとばったり出会い、お互いびっくり！いまに熊がでるかもと心配をしています。

いま新型コロナウイルスの脅威の前に、私たちは重症化しやすい高齢者をいかに守るか、息が詰まるほどの不安とともに感染予防に取り組んでいます。このような時にホームの周りのゆたかな自然が、利用者職員に心の安らぎ、加えて健康にしてくれるように感ずるのです。

八国山を巡る歴史、人々の暮らしの変遷の中では、様々な感染症の脅威がいつもそばにあったはず。私たちは改めて自然のはたらきに注目し、想像を絶する困難を乗り越えてきた先達の努力に思いを馳せ、力をもらい、現代の可能性を活用して、いま起きている脅威に対して地に足をしっかりとつけて立ち向かっていきたいと思います。



窓越しの面会

学童クラブ放課後子ども教室の現場から



法人監事 東京 YWCA 近藤 真里子

6 月「ただいま！」大勢の元気な子どもたちの声が漸く学童の場にも戻ってきました。東京 YWCA では、調布市の運営委託を受けて、調布市内染地地域にて 3 つの学童クラブと 3 つの放課後子供教室ユーフオーを運営しています。今回の新型コロナウイルス感染拡大防止のため出された「緊急事態宣言」発令に伴い、4 月中旬に市内小中学校休校と学童クラブ・保育園の臨時休業が決定されました。国からも、一早く学童や保育園の必要性は出されましたが、調布市においても医療業務従事者ほかエッセンシャルワーカーを中心に運営が粛々と続けられました。集団であること、密接になることは避けられない状況の中、ウイルスと共存するための方法として、手洗い・うがい、三密を避けるためのソーシャルディスタンス(人との距離を保つ)、換気や消毒等「新しい生活様式」は、日々の中で必須条件となりました。

子どもたちは、6 月の学校再開後すぐに授業が開始され、3 月からの大きな変化の中に戸惑いの様子が垣間見えます。「学校休校中にゲーム漬けになった」、「このまま学校が休みがよい」、「生活リズムが乱れた」、「心と体の調子が思わしくない方向にある」、「外遊び中もマスクが外せない」、「感情の起伏が激しい」、「やる気が出ない」等聞き取りアンケート調査や日々の関わりの中で見えてきました。学校の授業は再開されましたが、学校プールや夏の学校行事や学童の行事は全て中止となり、秋以降の行事も形を変えて行うこととなります。

7 月に入り、第二波かと思われる数字が出ており、コロナ禍の影響は今後もしばらく続きそうです。まずはじっくりと子どもの言葉に耳を傾けて、同じ空間の中にしっかりといることを意識していきたいと思います。子どもたちのおしゃべりに付き合い、仲間との関係づくりやあそびの空間を確保することからの再スタートです。「じゃぶな頭とかしこい体」を目指し、子どもたちとしなやかに進んでいきたいと思っています。

*「じゃぶな頭とかしこい体になるために」五味太郎著「今こそ、自分で考える頭と、敏感で時折きちんとサボれる体が必要」新聞コラム

